

2026年 4月

おいしいごはんが食べられますように

高瀬隼子

1年前に別の本で紹介させていただいた高瀬さんの芥川賞受賞作品です。芥川賞だからどうかはわかりませんが、ストーリーの展開と結末が圧巻で、・・・なるほど、「おいしいごはんが食べられますように」と、なるのだと楽しませてもらいました。前回紹介させていただいた「いい子のあくび」と同様、何とも言えない身近にある理不尽に対して見事に表現されています。小説なんか恐れ多くて書こうとも思いませんが、こういうふうには書けば楽しい小説ができるのだという教科書のようなわかりやすさも魅力かもしれません。大きな賞の受賞作品ですので、私なんかで紹介するまでもないのですが、何を讀もうか迷われていらっしゃる方の手に取ってもらえればうれしいです。

